美術科＜第３学年＞年間指導計画・評価計画

担当（　松永覚子　）

美術科　教科の目標
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

美術科　第３学年の目標
（１）主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
（２）対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。
（３）自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

関は、美術への関心・意欲・態度、　想は、発想や構想の能力、　創は、創造的な技能、　鑑は、鑑賞の能力

月	単元名	指導目標	指導内容	評価規準		評価方法	小学校との関連
	オリエンテーション ＜1 時間＞	自己をみつめ、他者を受け止めながら表現することを学ぶ。	①　自分の名前やすきな事柄から自分のマークを考える。 ②　アイデアスケッチの中から一つ選び、色鉛筆で彩色する。	知	自分のイメージを膨らませながら図案化出来ている。 技 伝えたいイメージを持ちながら色彩の効果などを考えながら表現できている。	アイデアスケッチ 完成作品 発言内容 授業態度	
４	鉛筆デッサン ＜４時間＞	鉛筆の特性を活かし、ものをみる力を育てる。	③　消しゴムをモチーフにＢ以上の鉛筆を用いて描く。 ④　明暗や影と陰の描き分けを学ぶ。	知	モチーフの雰囲気を五感でとらえ、イメージをもつことができる。色彩を無彩色のグラデーションに置き換えてイメージすることができる。	ワークシート 発言内容 授業態度	気持ちを表す形や色（５・６年）
				技	鉛筆の使い方になれ、表現方法を工夫できるようになる。 陰と影の描き方の違いが表現できる。 プロポーションを理解し、立体表現ができる。	制作途中の作品 制作の態度や様子 完成作品	

				鑑	他者の作品を鑑賞し、自分の作品との違いを理解する。	ノート記入 発言内容	
5 ・ 6 ・ 7	修学旅行ポスター ＜１２時間＞ 色彩論：確認 色のトーン、色の視認性 ＜１時間＞	情報伝達の手段のひとつである文字のデザイン制作の手順を学び、社会的な事象や啓示に興味を持つ。 自分のイメージに合う表現をするために、色の知識や性質、色と形の関係などを学ぶ。	①情報伝達の種類を知る。 ②文字のデザインは多くの伝達手段の一つであることを知る。 ③文字のデザイン伝えるための条件 ・資料収集 ・文案（キャッチココピー） ・配色計画 ・レタリング ・文様 ④色彩論・配色計画 ・１年生既習の色彩論の復習 ・24 色相を学ぶ ・色のトーンを知る ・色の視認性を学ぶ ⑤ポスターカラーで着彩 ⑥作品発表会（鑑賞）	関	・伝えたい内容に関心を持ち、情報収集に関心意欲を持つ ・色彩の仕組みをしり、表現することに関心をもち、主体的に構想を練ろうとしている。	制作計画（ノート記入内容） 発言内容 授業態度	気持ちを表す形や色（５・６年） 表し方を工夫して（６年） 風が見えたら （５年）
				想	・伝えたい内容にイメージを膨らませ、 限られた画面の中で文案の内容及び 配置、図案の形や色の効果を生かし創造的な構成をする。 ・目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、形や色彩の効果を生かして構成や配色を考え、表現の構想を練っている。	アイデアスケッチ 配色計画	
				創	・ポスターカラーの特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。 ・形や色彩などの表し方を身に付け、表したいイメージをもちながら意図に応じて材料や用具の生かし方を考え、創意工夫して表現している	制作途中の作品 制作の態度や様子 完成作品	
				鑑	他者の作品を鑑賞し、自分の作品との違いを理解する	ノート記入 発言内容	
	鑑賞① 日本美術史：文化遺産を守る ＜１時間＞	普遍的な価値をもつ文化遺産を次の世代へ残す役割について理解する。 都市としての古都を、古都保存法、ユネスコ世界遺産から理解する。	①文化遺産などの造形的な魅力を守り伝える活動に興味をもたせる。 ②修復や保存について学び、材料や技法について理解させる。 ③文化遺産などの造形的な魅力や歴史的な価値について話し合わせる。 ④時代別の仏像や建築物の特徴をとらえさせる。	関	美術作品などに取り入れられている自然のよさなどに関心をもち、主体的に生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解しようとしている。 時代別に仏像や建築の違いを理解する。	ノート記入 発言内容 授業態度	気持ちを表す形や色（５・６年）
				鑑	美術作品などに取り入れられている自然や色彩、材料などからよさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解している。 【学び合い(言語活動の充実)】	ノート記入 発言内容 自己評価カード	

9	鑑賞 日本美術史（飛鳥～室町）のレポート作成 ＜１時間＞	日本の美術や美意識について考え、文化を大切に継承していこうとする気持ちをもつ。	①日本仏教美術における仏像や建築、考え方の流れ、日本の風土に育まれた四季を意識したものについて知り、関心をもたせる。 ⑤　日本仏教の流れを理解し、修学旅行で訪れる仏像を理解する。	関	日本の美術をとおした概括的な変容や作品の特質を調べることを積極的に行う。	ノート記入内容 発言内容	気持ちを表す形や色（５・６年）
10 11 12	10 年後の私へのメッセージ ～自画像で表す～ ＜１２時間＞	卒業制作として、自己の内面を見つめ、感じ取ったことを主題に、時間をかけてじっくり取り組み創作活動の楽しさを伝える。 「こんな風に生きたい」「こんな自分でいたい」などの将来に対する思いを形として表現することを学ぶ。	①　題材のねらいや意義を知る。 ②　さまざまな作家が制作した、人物をモチーフにした作品を鑑賞する。 ③　自分の制作主題を考えて決定する。クロッキー帳にスケッチをしたり、アイデアスケッチを描き、発想を広げる。 ④　制作計画を立て、見通しをもって制作する。 ⑤　相互鑑賞	知	自分の将来や大事にしたいことを思い描きながら主題を決めることができる。 自分の表したいイメージにあった表現方法や構図をかんがえることができる。	ノート記入内容 発言内容	ドリームプラン（６年） 織る、編む、組む（６年） 表現に込めた思い（６年） 図画工作でコミュニケーション（５・６年）
				技	目・鼻・口などのバランスをとらえ、じっくり観察しながら表現している。 背景との関係性、色彩や陰影などを意識しながら制作している。	制作途中の作品 制作の態度や様子 完成作品	
				鑑	他者の作品の持ち味を理解して大切にする。 自分の作品を客観的に見ることができる。 自分や他者の作品を客観的にみて講評する。	ノート記入内容 発言内容	
1 2	ゼンタングル ＜３時間＞	様々な種類の模様を繰り返し描くことで、抽象絵画（ペン画）を作成する。複雑そうにみえるが簡単な図形で構成されているので、自分でアレンジしたり、達成感を味わいながら創作の楽しさを実感する。	①　ゼンタングルの意味を説明する。（抽象的で上下がない。決まったタングル（パターン・模様）で埋めていってもよいし、オリジナルでタングルをアレンジそてもよい）など。 ②　用意した、資料をもとに描い	技	・いくつかのパターンから組み合わせを考えデザインを工夫している。 ・ペンの特性を理解し、細かく丁寧に制作できている。	制作途中の作品 制作の態度や様子	表現に込めた思い（６年）
				鑑	自分の作品の良さとともに、他の生徒の作品の良いところに気づき、見方や感じ方を広げ、深める。	完成作品	

3			てみたいタングルを選び、描画していく。 ③　数色の色紙から好きな色を選び、台紙としてゼンタングルの作品を貼る。 ④　相互鑑賞を行う。				